

Trias 企業メモ 2009-4-14

Lasertec (6920 JASDAQ) レーザーテック株式会社
2009年6月期 第2四半期決算説明会サマリ

2009年2月18日、レーザーテック株式会社(以下、レーザーテック)の2009年6月期 第2四半期決算説明会が行われましたので、概要をご案内いたします。

説明会出席者:	レーザーテック(株)	代表取締役社長	渡壁 弥一郎 氏
	同	代表取締役副社長	岡林 理 氏
	同	取締役兼執行役員	内山 秀 氏
	同	執行役員	古賀 一正 氏
	同	企画 IR 室 室長	今井 哲也 氏

渡壁社長による決算説明の骨子は以下の通りです:

【2009年6月期 第2四半期決算の概要】

今上期は、世界経済の大幅悪化の影響を受け、当社の主要販売先である半導体業界における設備投資抑制が急速に広がり、受注が低迷した。売上高は前年同期比 32.5%減の 44.7 億円、営業利益は 2.4 億円の赤字となったが、営業利益の対前年同期比の大幅な減少は、主に売上減による。

製品別売上高では半導体関連装置が大きく予想を下回り、前年同期比 71.9%減の 12 億円弱。FPD 関連装置は前年が低調であったこともあり、前年同期比 62.9%増の 25.6 億円となったが、半導体関連売上の落ち込みをカバーできなかった。韓国サムソンを含めたパネルメーカーによる 11 世代への移行はあまり進んでいない。受注状況も全般的に極めて低調に推移しており、前年同期比 40.3%減の 24.2 億円、特に FPD (フラット・パネル・ディスプレイ) 関連では大型マスク検査関連装置の受注が決まらず、前年同期比 60.6%の減少。

【2009年6月期 通期の見通し】

今期売上高は前年同期比 29.3%減の 100 億円、営業利益は 8.3 億円の赤字を見込む。特に、半導体関連装置売上高は前年同期比 60.7%減と極めて厳しい予想で、製品評価損とともに営業利益を圧迫する見通し。

【今後の取組み】

今期は引き続き、半導体・FPD 業界ともに設備投資の大幅抑制が続くことが予想される。このような厳しい事業環境を踏まえ、収益改善に向け、事業体質強化のための緊急経営対策を実行、また中核事業および新規事業の開拓に経営資源を集中し、次なる成長に向けての強化を図りたいと考えている。

収益改善策としては、徹底した経費の削減、財務体質の強化、そして液晶修正装置の黒字化を、2011年6月期をめどに実現させたい。液晶修正装置については、抜本的な設計の見直しを行っている。顧客マインドが変化してきており、余分な機能は省いてほしいとの要請もあり、顧客ニーズにあわせた設計・提案を行っていきたい。また、課題解決に即応するスピード開発を強化していきたい。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

事業強化の方向性としては、まず第一に半導体関連の更なる強化が挙げられる。マスク関連では主力製品である MATRICS シリーズのシェア拡大、ウェハ関連では WASAVI シリーズのラインナップ増強を図り、受注に結びつけていきたい。加えて新規事業開拓として、光学系技術を応用した新規分野に積極的に取り組んでいきたい。具体的には、太陽電池のエネルギー変換効率向上のための測定システムに関し、現在国内外で評価を受けており、2009年2月末より試作デモ開始の予定である。エネルギー関連は現在注目を集めているテーマであるため、太陽電池パネルの製品も多々出てきている。このような環境下、今後は製品品質にばらつきが出てくる一方、ますます高性能で耐久性の強い品質が求められる傾向が予想される。当社では、品質向上に貢献できる検査計測装置をじっくりと提供して行きたい。

厳しい状況にも関わらず、中国、韓国などの一部顧客には、液晶関連の8世代クラスの製品ではあるが引き合いもある。そうしたニーズをつかみ、また機能を絞り込むばかりではなく、顧客の困っているニーズを丹念に拾い上げて販売に結びつけ、来期黒字に向けた基盤を作って行きたい。

【質疑応答】

- Q1. 液晶用大型マスク検査装置に関し、中国からはどれくらいの引き合いが来ているのか？ また、売上計上はいつ頃と予想しているのか？**
- A1. パネル生産は中国、マスク生産については中国に加えて韓国でも行われているが、これらメーカーからの受注は来期になるのではないかとみている。中国で使われるのは8世代以下のものなので、金額としては数億円規模の案件が2~3件と予想している。
- Q2. 2009年6月期製品別受注予想で、半導体関連は前年同期比17%増と強い数字だが、どこからの受注なのか？**
- A2. 最先端のデバイスメーカーなどから、微細化が進んだマスクで歩留まりを落とさないためのニーズが出ている。装置がないと生産に支障が出る領域においては、この厳しい状況でも引き合いがある。
- Q3. 太陽電池向け測定システムの単価のイメージは？**
- A3. デモの過程なので、未だ決まっていない。
- Q4. 今回の収益改善策でどの程度のコスト削減となる見通しか？**
- A4. 数億円は確実に削減できる。また今期経費として落とせるものは積極的に落としたい。減損もできる限り行う予定。利益率については、今回粗利率がかなり落ち込んだが、来期に向けて改善したい。
- Q5. 短期借入に担保設定はあるのか？コミットメントラインの内容および借り入れ余力について、教えて欲しい。**
- A5. 短期借入については、信用扱いなので担保設定はない。コミットメントラインは、昨年12月に15億円設定した。50億円のCBの償還が2年後なので、リファイナンスの必要があるが、余力は十分にあると考えている。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Q6. 通期の資金繰り状況について教えて欲しい。

A6. 借入れは1~5月がピークで30億円程度と予想しているが、期末残高は減少するとみている。

Q7. FPD 関連装置の売り上げ予想における修正装置と、マスク検査関連装置の割合は？また、韓国や台湾の売上予想の内訳はどのようなものか？

A7. 修正装置は約7割、マスク検査関連は約3割。台湾からは、6Gと8Gの売上を9億円程度見込んでいる。割合としては、8Gが多い。また、韓国からは16億円程度を見込んでおり、内訳は8G。

Q8. PV(太陽電池)検査装置について、薄膜系、結晶系のどこの辺りにアプローチしているのか？

A8. まずは全方位的にやっていくつもりだ。現状は国内が多く、台湾から1~2社引き合いがある。

以上

【ご参考】

(6920)レーザーテック株式会社 連結主要データと連結業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2008.6月	11,785,800
うち自己株式数(株)	2008.6月	522,628
時価総額(百万円)	2009.4.14	5,905
一株当純資産(円)	2008.6月	1,175.7
ROE(%)	2008.6月	14.4
ROA(%)	2008.6月	8.6
PER(倍)	2009.6月予	-7.6
PBR(倍)	2008.6月	0.4
株価(円)	2009.4.14	501

連結主要データ		
総資産(百万円)	2008.6月	22,268
株主資本(百万円)	2008.6月	13,292
有利子負債(百万円)	2008.6月	5,000
自己資本比率(%)	2008.6月	59.5
有利子負債比率(%)	2008.6月	37.6

注 ROE=当期純利益÷期首と期末の株主資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

有利子負債比率=有利子負債÷株主資本

連結(百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	一株益(円)	一株配(円)
2005年6月期	9,972	1,911	1,928	1,203	98.1	25.0
2006年6月期	12,033	2,963	3,060	1,884	162.3	40.0
2007年6月期	15,874	3,895	3,895	2,375	203.8	60.0
2008年6月期	14,136	3,100	3,156	1,888	165.2	50.0
予2009年6月期	10,000	△ 830	△ 860	△ 740	△ 65.7	15.0

注 2009年6月期予想は、2009年2月13日発表の会社予想

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。